

# 愛知県感染症情報

## 平成 12 年第 2 週（1 月第 2 週）

### （コメント）

インフルエンザは、先週に引き続き 1,328 人から 2,127 人に増加しています。全国集計でも増加傾向にあります。

感染性胃腸炎の報告数は、定点あたり 7.6 人で昨年末をピークとして依然流行しています。

### （先生方からのコメント）

- ・ 水痘は年末、年始に帰省していて、感染したものです。今週も感冒性胃腸炎が目立ちます。

（田原町 かわせ小児科）

- ・ インフルエンザが流行してきました。ワクチン接種児もインフルエンザにかかっています。

熱性痙攣 1 才 6 ヶ月女 FluA テスト(+) ワクチン 1 回接種

水痘 1 才男（H11.7 ワクチン済）

（豊橋市 医療法人こどもの国大谷小児科）

- ・ 溶連菌感染症は、両親と子供一人です。

インフルエンザ 3 名は Flu-A 陽性です。

（西尾市 やすい小児科）

- ・ インフルエンザ増えていますが、多くはありません。

乳児の細気管支炎が目立ちます。

（碧南市 永井小児クリニック）

- ・ FluA 抗原(+)が増加しています。

（刈谷市 田和小児科医院）

- ・ 当地域では、成人の日以降よりインフルエンザがみられだしました。

（豊川市 ささき小児科）

- ・ マイコプラズマ肺炎 6 才男

（岡崎市 医療法人深田小児科）

- ・ FluA 陽性 9 名（1/14～1/16 に FluA 検査 14 名実施）5 名は家族歴と症状からインフルエンザと診断。小児は高熱以外典型的症状に乏しい感あり。

（岡崎市 小児科延寿堂杉浦医院）

- ・ カンピロバクタ-病原性大腸菌 0-6 10 才  
(幸田町 とみた小児科)
- ・ インフルエンザ 2 人 (4 才男、5 才女共に Fl uA ( + ) )  
(知立市 近藤こどもクリニック)
- ・ マイコプラズマ肺炎 7 才男  
(三好町 三好町立三好病院)
- ・ ディレクジェン Fl uA 陽性の内、3 才未満が約 3 分の 1 (10 人) を  
占めている。アマンタジン著効。  
(豊田市 医療法人やふそ小児科)
- ・ ロタウィルス抗原陽性 1 才男  
BD ディレクティジェン Fl uA 陽性 5 例 (3 才男、3 才女、4 才男、  
8 才男、10 才女)  
(豊田市 星ヶ丘たなかこどもクリニック)
- ・ 百日咳 11 ヶ月女 (ワクチン未接種)  
まだ水痘流行続いています。  
インフルエンザ様疾患急増しています。(学童、幼児にも目立っ  
てきました)  
(尾張旭市 医療法人誠和会佐伯小児科医院)
- ・ A 型インフルエンザによる肺炎 4 例 (1 才 5 ヶ月男、4 才男、6 才  
女、10 才男)。このうち 3 例 (1 才 5 ヶ月、4 才、10 才) は発病 2  
病日以内にアマンタジン投与するも発熱が持続しました。水痘も  
多くみられます。  
(瀬戸市 津田こどもクリニック)
- ・ 1 月 10 日、日進休日診では、79 名来所。インフルエンザと家族ぐ  
るみの感染性胃腸炎が 6-7 割占めました。  
(東郷町 ホリバ医院)
- ・ インフルエンザ A 香港型多くなりました。  
(小牧市 医療法人心正会鈴木小児科)
- ・ 昨冬に比して、インフルエンザの発生はゆるやかです。  
(春日井市 かちがわ北病院)
- ・ 毛細気管支炎 入院 2 名 インフルエンザ脳炎とマヒ性イレウス  
の入院多数  
(美浜町 厚生連知多厚生病院小児科)
- ・ インフルエンザ流行しはじめる  
5 例にディレクティジェン Fl uA 施行し前例陽性  
(一宮市 後藤小児科医院)

- ・ 病原性大腸菌感染者 4 名 (ETEC(0-18) 1 才女、4 才男、31 才男、ETEC(0-20) 3 才女)  
この他に糞便アデノウイルス抗原陽性の患者が多数  
インフルエンザ A (確認済) 99 名の内肺炎合併者 17 名、インフルエンザ B 2 才  
(尾西市 城後小児科)
- ・ 病原性大腸菌検出者 4 名 (0-1 15 才男、0-1 1 才男、0-18 3 才男、0-25 2 才女)  
インフルエンザ A (確認済の者) 12 名 (男 7 名 女 5 名このうち肺炎合併者幼児 5 名)  
マイコプラズマ肺炎 4 名  
(尾西市 城後小児科) (平成 11 年第 52 週分のコメント)
- ・ 感染性胃腸炎に加え、インフルエンザも多く見られるようになりました。  
(江南市 みやぐちこどもクリニック)
- ・ Flua(+)反応多し。アマンタジン著効 無効例 2 例 ワクチン接種者 3 例感染。  
(岩倉市 なかよしこどもクリニック)

(1～3 類感染症の発生状況)

細菌性赤痢患者 1 名

春日井保健所から報告の 26 才男 1/9 発病、1/11 初診、1/14 診定。菌型は、フレキシネル 6。

(全数把握の 4 類感染症の発生状況)

発生はありません。

#### ◆ 病原体検出状況

安城保健所管内の患者から 1 月 5 日採取の検体 (咽頭ぬぐい液) から A 香港型インフルエンザウイルスが検出されました。

第 51 週～52 週 (平成 11 年 12 月 20 日～平成 12 年 1 月 2 日) の 4 類感染症の全国状況

感染性胃腸炎、水痘の報告が全国的にかなり多くなっている。インフルエンザは、宮城県で定点当たり報告数 17.63、奈良県で 15.15、大阪府で 11.51 と多くなっている。麻疹は集団発生を認めた都道府県を複数認め、報告数がやや多くなっている。

(Infectious Diseases Weekly Report より抜粋)

厚生省感染症研究所感染症情報センター感染症情報室提供)

明けましてお目出とうございます。本年もどうぞよろしくお願いいたします。宿題を抱えたまま年を越してしまいましたが、先生方のお正月はいかがでしたでしょうか。いつも貴重な情報を有難うございます。12 月後半のまとめをお送りします。

1. インフルエンザ情報: 暖冬のせいか大きな流行は前回の報告以後おこっていません、県下の各地区で散発例から A ソ連型(H1N1)が分離されていますが、分離ウイルスとワクチン株では特に大きな抗原変異はないようです。名古屋市内ではその後ウイルス分離例はありません。臨床的には A インフル陽性で高熱が持続する例、生後 2 ヶ月などの乳児例、7-8 歳児で発熱に痙攣を合併する例があり、第二日赤岩佐先生からはインフル様疾患で脳症合併例が数名入院し死亡 1 例の報告をいただいています。

前回同様のお願いです。先生方の地区のインフルエンザ、特に臨床症状や経過についてぜひ情報をお知らせくださいますようお願いいたします。: 最高体温と発熱期間、二峰性発熱、脳炎肺炎や筋炎の合併とワクチンの有効性など、第一線の日常診療で参考になる(感染症サーベイランスの数字には出てこないような)情報をお寄せ下さい。

2. 名古屋市内: カゼ様の上気道疾患・咽頭炎が増加していますが集団カゼはあまり目立ちません。乳児から学童までのロタウイルス陰性の感冒性胃腸炎や嘔吐下痢症が各地区で多発、嘔吐下痢、時に脱水による入院例もあるが経症の下痢例も多く、発疹を伴う例も散発しています。(名鉄病院宮津先生、第一日赤有吉先生、国立病院松下先生、千種区今枝先生、三菱病院岩間先生、中京病院柴田先生、大同病院水野先生)。気道感染症では気管支炎、RS ウイルス感染症、細気管支炎、仮性クループ、マイコプラズマ感染症を含む肺炎が各地区で目立ち、要入院例の報告を沢山いただいています。(第一日赤有吉先生、国立・松下先生、城北・渡辺先生、千種区今枝先生、三菱・岩間先生、中東・柴田先生、大同・水野先生)。その他ブ菌火傷様皮膚症候群(第一日赤有吉先生、国立・松下先生)、溶連菌感染症(千種区今枝先生、三菱・岩間先生)、川崎病が増加(城北・渡辺先生)、A 型肝炎、EBV? の肝機能障害(国立・松下先生)などのお手紙でした。

3. 尾張地区: 犬山市武内先生から感染性胃腸炎と流行性嘔吐下痢症が多発中で、溶連菌感染症とインフルエンザ散発中、津島市民病院長田先生からはインフルエンザ A 抗原陽性例とロタウイルス陰性の胃腸炎が多く要入院例が目立つ、江南市昭和病院丸地先生からは麻疹 1 例、インフルエンザと胃腸炎が流行中で要入院例あり、肺炎クラミジアの入院例あり、岩倉市永吉先生からは胃腸炎が散発、暮になって A 陽性でアマンタジン有効のインフルエンザ発生、一部には B 型らしい例が混在、常滑市民病院肥田先生からは感冒性胃腸炎が流行、インフル陽性例はまだない、市立半田病院中島先生からはインフルエンザ様疾患の流行が始まっているとのお手紙でした。

4. 三河地区: 豊田地区では嘔吐下痢の感染性胃腸炎多発(要点滴例多い)、インフルエンザ A 陽性あり、ブ菌火傷様皮膚症候群入院 4 例、マイコプラズマ肺炎目立つ(トヨタ病院原先生、竹内病院梶田先生)、知立市近藤先生からはインフルエンザ A 陽性例が発生、嘔吐性感冒が乳幼児に多くロタウイルス陽性、水痘散発中、刈谷市田和先生からは嘔吐下痢症が少し目立ち、水痘とムンプスぽつぽつ、感冒で数日発熱するものがやや目立つ、碧南市永井先生からは幼児から学童を中心に嘔吐を主症状とする胃腸炎(嘔吐の後に下痢が出現する例も)が目立ち、インフルエンザ A 陽性例が発生、豊橋市宮澤先生からは感冒性嘔吐症と水痘の流行が続く、とのお手紙でした。有難うございました。(文責 磯村)

1999 年 11 月 19 日号 (74 巻 46 号)

HIV 感染者の結核発病予防内服 (Preventive Therapy, PT) : 結核菌感染・未発症の HIV 感染者の結核発病予防のための PT に関する WHO と UNAIDS の勧告。 PT は HIV/AIDS の人々のケアの一つである。 PT は結核の活動性病変否定の場合だけに実施されるべきで、発病に関して綿密な経過観察が必要である。 PT を含む結核に関する情報は HIV 感染者に与えられないといけない。 PT は HIV 検査、カウンセリングの一部である。 結核対策の基本は感染性結核症例の発見と治療である。 抗結核剤の供給は、耐性菌発現対策上、国による管理下に置かれるべきである。

PT の対象 : ツ反陽性で HIV 陽性、未発症者で結核多発地区住人、結核患者同居者、医療従事者、囚人、鉱山労働者、他の感染機会をもつもの。

PT : INH. 5 mg/kg/日 (最大 300 mg)。

インフルエンザ : 99 年 10-11 月。カナダ ; A (H3N2)、フランス ; B、ドイツ ; A (H3N2)、オランダ ; A (H3N2)、ポーランド ; A (H3N2)、ポルトガル ; A (H3N2)。

東チモールの状況 : 11 月の雨期になりコレラやマラリア流行開始。オーストラリアへの難民の 2.9% に活動性結核あり、WHO が結核対策開始。

アフリカのコレラ : ケニア (99 年 9 月) 254 例 (死亡 10)、モザンビーク (99 年) 4725 例 (死亡 148)、ソマリア (99 年 8 月) 7154 例、ウガンダ (99 年 8-9 月) 351 例 (死亡 3 例)、ルワンダ (99 年 10 月) 140 例 (死亡 5)。

10 月 22-28 日届出。コレラ : ケニア、ルワンダ、シンガポール。

1999 年 11 月 26 日号 (74 巻 47 号)

世界の AIDS。パート I。99 年末の状況。全世界で HIV 感染者/AIDS 発病者 (HIV/AIDS) は推定 3360 万例、99 年の年間推定感染者 560 万。死亡例は 99 年末までに 1630 万 (99 年年間死亡数 260 万) で 1/5 は小児、51% が女性。先進工業国における減少と途上国、特にサハラ南縁部の増加。地域的には、サハラ南縁諸国の 99 年死亡数 220 万 (世界の 85%)。女性と小児が多い。東南アジア地区で急増、中南米では男性同性愛によるものが多く、東欧と中央アジアでは薬剤常用が多い。北米、西欧では抗ウイルス剤使用により患者数は減少したが新規感染者は多い。

東地中海地区のポリオ根絶計画。98 年 1 月-99 年 10 月。 : 東地中海地区 23 カ国ではポリオ生ワクチン定期接種率は <1 歳 3 回接種者が 82% と報告されているが 24-100% と開きが大きく、実態調査からはもっと低いと推定される。全国一斉接種日は 19 カ国で実施されたが全域ではない。急性弛緩性麻痺患者はほぼ全域で登録されるようになったがウイルス検体採取は約 65%、ウイルス培養同定の検査網は設定され可能となった。97 年以降ポリオ 2 型野生株の流行はないが、1 型と 3 型野生株の発症者はパキスタン、アフガニスタン、イラク、エジプトから報告されている。

集団発生 : ベルギーのレジオネラ。10 月-11 月。貿易祭後。80 例 (死亡 4)。

米合衆国の黄熱 : 48 歳男性。ワクチン未接種。9 月、ベネズエラ旅行後発病死亡。

10 月 29-11 月 4 日届出。コレラ : マダガスカル。ペスト : 米合衆国。

1999 年 12 月 3 日号(74 巻 48 号)

世界の AIDS。パート 。99 年末の AIDS 患者の各国の性別、年齢別報告。問題として、届出数の正確さ(国によって実数の 10%-100%)、診断基準の違い、その地域の感染流行開始時期:感染後 5-10 年で発病(小児ではやや早い)。現在の患者数は 5-10 年前の感染状況を反映。先進国における抗ウイルス剤投与(Highly Active Anti-Retroviral Therapy,HAART)による発病阻止効果(70%)。

(1)サハラ南縁諸国では女性患者が半数近くであるが、他の諸国においてはこの 3-4 年間で男性患者は女性の 4 倍となっている。

(2)感染源として異性間性的接触がサハラ南縁諸国では 90%を占めているが、アジア、ラテンアメリカ、北米/中東では増加中ではあるがそれほどではない。

(3)先進国では性感染と薬剤常用が多い。

フィジーのコレラ:99 年 7 月。ニュージーランドへ輸入例。井戸水の汚染?

インフルエンザ:99 年 10-11 月。デンマーク、エジプト、フランス、イギリス、米合衆国共 ; A(H3N2)、フランスと南アフリカで A(H1N1)、エジプト、アイスランド、米合衆国で B 型。

抗生剤の使用監視:デンマークで獣医領域の抗生剤使用モニタリング(Veterinary Medicine Statistics,VETSTAT)が 2000 年 3 月 1 日から開始。

国際検疫病(ペスト、コレラ、黄熱):99 年 12 月における常在地一覧。

11 月 26-12 月 2 日届出。コレラ:チャド、ガーナ、リベリア、マダガスカル、ナイジェリア、シェラレオネ、トーゴ、ウガンダ、ブラジル。